

デーリー東北
2018年(平成30年)4月12日(木曜日)(3)

身近な「丸」求め街巡り



八戸や周辺地域の丸い物を芸術
作品に生かしたジェローム・ソ
リアーノさん(右)



魅力再発見

外国人から見たキタオウウ

芸術作品制作で八戸に

ジェローム・ソリアーノさん(右)とフィリピン

フィリピン・マニラを拠
点に活動しているアーティ
ストのジェローム・ソリア
ーノさん(右)が3月5日か
ら約1カ月間、八戸市に滞
在した。

拠点以外に一定期間住み
ながら、調査や交流を行っ
たことで新たな創作活動に生
かしてもらおうほか、地元住
民には再発見の機会にして
もらおうと、八戸工業大の
感性デザイン学部創生デザ
イン学科の講師東方悠平さ
んがアーティスト・イン・
レジデンス「八戸」の第1弾
として企画した。

写真や映像を用いた作品
を手掛けるソリアーノさん
は八戸や近隣地域の「丸」
を写真に収めて映像にし
ようと考案。市内では自転
車を駆使し、街中を巡っ
た。

滞在中は、道路標識や八
戸酒類の八鶴のラベル、南
部鉄道の急須など400、
500の丸い物を発見。
特に興味を持ったのが、マ
ンホールだったという。
「市町村ごとに違うデザイ
ンがあって面白い。どのの
街かは忘れたが、消防士が
描かれたデザインがとても



お気に入り 八戸港の写真を撮るジェローム・ソリアーノさん

気に入った」とソリアーノ
さん。
案内役として共に時間を
過ごした同学科2年の寺井
隆太郎さん(20)は「とても
フレンドリーで、接しやす
い」とソリアーノさんの印
象を語った。1年の大久保
真季さん(19)は「身近にあ
るものを作品に変えるアイ
デアがすごい」と感銘を受
けた様子だった。
ソリアーノさんは「フィ
リピンとは異なる寒い気候
や料理、人々との交流など
を体験でき、貴重な思い出
になった」と話していた。
(玉川那津美)

メッセージ

「姉妹港」に感動



フィリピン・マニラと
「姉妹港」関係にある八
戸市。同じ港でも雰囲気
が全く違うのには驚い
た。フィリピンの港は治
安の問題などで危険とさ
れることが多く、あまり
近寄れない。一方、八戸港はとてもきれいで活気づいている。さまざまな漁船や工業地帯を見渡せて好きな場所になった。

また、雪を見られたのはうれしかった。夜は寒過ぎて帽子をかぶって寝ていたけど、今ではいい思い出だ。フィリピンではエアコンが欠かせないが、日本ではヒーターが必須。雪がある地域の生活を一度でも体験できて良かった。